

二〇一九年二月八日

春めきて花壇の土のふつくらと
大の字に寝そべつてみる浜四温
早春の気を廻しをる大風車
さざ波のと行き斯くゆき湖は春
雪を敷くごとき大樹の落椿
旅の朝氷柱雫の音に覚む

菜々
せいじ
たか子
せいじ
三刀
智恵子

二〇一九年二月七日

ものの芽に昨夜の雨粒ひかりをり
下萌や更地となりし風呂屋址
蔵開き一升瓶で手酌かな
恙なきひと日を感謝蜆汁

ぼんこ
はく子
なつき
満天

二〇一九年二月六日

色褪せし売地の幟春寒し
朝靄の中より現れし蜆舟
こうのとり降り立つ川辺水温む
マニキュアの十指をかぎす大火鉢

満天
菜々
こすもす
なつき

二〇一九年二月五日

啓蟄や嬉々として夫畑へと
たる酒に金箔浮かべ蔵開き
単線の通過待ちなる余寒かな
春の海達磨のごとき夕日落つ

明日香
なつき
たか子
せいじ

二〇一九年二月四日

遊覧船あがるしぶきに風光る
ブルドーザート野仏かすめ川普請
高枝の虜となりし凧の糸
春寒し絵踏の島の入り江かな

ぼんこ
なつき
やよい
たか子

二〇一九年二月三日

托鉢の仄と寒紅差しゐたり
春光ののつぼの影と漫歩せり
鐘一打撞く早暁の余寒かな
年取らぬ夫の遺影へ年の豆
力石にも小ぶりなる注連飾

うつぎ
やよい
宏虎
はく子
そうけい

二〇一九年二月二日

梅が香に万葉歌碑をたもとほり
三輪車らしき轍や露地四温
始発来る雪野の果てに前照灯
暖かや棺の妻に感謝多々

さつき
菜々
隆松
はく子

毎日句会みのる選・二〇一九年二月一日